

# 赤れんが

もんじょかん  
北海道立文書館報 No.59  
2024(令和6)年3月

## 「文書館公開システム」での資料検索

2020年に更新された資料検索「文書館公開システム」の新機能についてご案内します。

### ▶「まとめて検索」機能

公文書・私文書・刊行物等の区分を横断して検索できる「まとめて検索」が追加されました。

探している資料の区分がわからない場合でも、資料名(タイトル)や作成者名に含まれる語句・名称を検索することができます。

細かく条件を指定して検索したい場合は、以前からある区分ごとの検索機能をご利用ください。

### ▶資料名・件名の一括検索機能

公文書・私文書では、資料名と件名の両方を対象とした検索ができます。

件名とは、文書綴(簿冊)に含まれる個々の文書のタイトルです。公文書では、現在、箱館奉行所文書から完結年次が1885年(明治18年)までの「簿書」等が検索可能です。私文書では、古平警防団文書の一部などごくわずかです。

公文書・私文書の検索画面に、「資料名」「件名」を選択するチェックボックスがあります。初期状態では両方が選択されており、資料1点単位、件名単位の両方を対象に検索できます。

また、どちらかのチェックをはずして資料のみ・件名のみでの検索も可能です。

### ▶検索結果からのデジタル画像閲覧

新システムにデジタル画像を登録している資料については、検索結果から直接画像を閲覧できます。

なお、本号発行時点で、幕末～明治前期公文書挿

画コレクション、函館支庁管内町村誌、星野家文書安間純之進文書については新システムに画像登録をしていないので、以前からあるデジタルアーカイブのページからご覧ください。

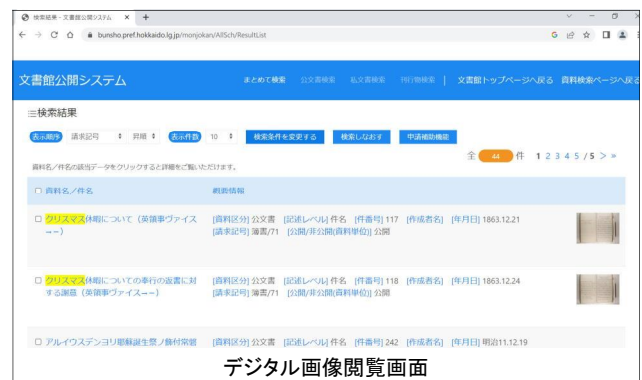
### ▶私文書検索トップ画面での文書群名検索

私文書検索のトップ画面に文書群名を表示しました。

ただし、表示順が概ね請求記号順なので、ブラウザの「ページ内検索」で探すのが便利でしょう。WindowsではCtrlキーとF、MacならCommandキーとFを押すとページ内検索できます。



「まとめて検索」画面



デジタル画像閲覧画面

### ▶被災時の資料保存について

文書館では、ホームページのトップ画面にコーナーを設け、次の情報を提供しています。

■「水ぬれ資料を救おう—被災資料の救出と日頃の備え—2018(平成30)年度文書等保存利用研修会記録」(神戸大学地域連携推進室・松下正和特命准教授による講義とワークショップの記録)

■被災資料の救済に関する各種情報(リンク集)

歴史資料ネットワーク、広島県立文書館、埼玉県地域資料保存活用連絡協議会が公表している情

### 報へのリンク

#### ■関連団体等のホームページへのリンク

国立公文書館の「被災公文書支援チーム」、阪神・淡路大震災の際の資料保全を目的として結成され被災資料保全活動をしている「歴史資料ネットワーク」へのリンク

今後も資料保全等の情報について、このページで紹介していきたいと思います。興味のある方はぜひ一度ご覧ください。

## 幌？纒？：レファレンスの事例から

「札幌の地名が今の漢字になったのはいつか」という問い合わせがあったため、調べてみました。

札幌市『札幌市史 政治行政篇』(1953) (以下、『市史』) を見てみると、「明治二年八月蝦夷を改めて北海道と称し国都を置いた際、サツポロに『札幌』の漢字を用いたが、それまではシャツポロ・サツポロ・サツホロと仮名で書いたり、札幌・扎纒・察幌・幸洞・幸幌などいろいろな漢字をあてはめていた」という記述がありました。

この時点でバリエーションの多さにびっくりです。当時の人は混乱しなかったのでしょうか？

そう思ったのですが、関秀志編『札幌の地名がわかる本』(2018) (以下、『わかる本』) には、「近世の記録では、促音(つまる音)の「っ」「っ」は、清音の「つ」「つ」と書くのが一般的だった」、「アイヌ語には本来清濁の区別がなく、サ行音とシャ行音の区別もないので、<ほろ> <ぼろ> <ぼろ> (<ホロ> <ポロ> <ポロ>) の区別と、<さつ>、<しやつ> (<サツ> <シャツ>) の区別もなかった」とあります。

表記すると多彩ですが、発音は基本的に同じだったようですね。

その上で、もともとアイヌ語は特定の文字で表記する方法が定まっていなかったこともあり、アイヌ語の地名を聞いた人が、聞き取った発音にあわせてそれぞれに字を当てたことで何通りもの表記が生まれたのではないのでしょうか。

なお、『市史』と違い『わかる本』では、「『サツポロ』から『札幌』という漢字表記への転換は、短期間ではあったが『札幌』の時期を経て実現した」、「明治2年8月制定の全道86郡(石狩国は9郡)の一つとして、『札幌郡』が決定」、「しかし、制定された明治2年から早くも『札幌』の表記が使われ始め」た、「しかし、表記変更の時期、理由等を定

札幌と都の区分  
札幌

幌

神祉官  
札幌神社引渡ノ件

幌

1869(明治2)年の開拓使公文録(簿書/5702)で「幌」と「幌」が使用されている事例(関連箇所のみを掲載)

左「仙台藩伊達英橋外巻名へ増支配ノ件」(件番号157)

右「札幌神社引渡ノ件」(件番号181)

めた法令は確認できていない」とあります。

ちなみに、『新大辞典』(講談社)によると、「幌」は「幌に同じ」、「扎」は「札の俗字」とのことです。どちらも異体字(漢字や仮名の標準字体以外のもの)といえるそうです。

「札幌」と表記するところを「札幌」と書いても、あるいは「扎幌」と書いても、間違いとはいえないかも？

(専門主任 正木 公一)

## 新規整理資料の紹介～中村十一郎寄贈資料

2023年度に新たに整理した「中村十一郎寄贈資料」を紹介します。戦前に新冠御料牧場の技手であった中村十一郎氏が、当館の前身組織に当たる総務部行政資料課に寄贈したものです。

資料は文書類と刊行物に大別され、文書類は、(1)新冠御料牧場関係資料、(2)帰農期成同盟関係資料からなります。(1)は戦前の新冠御料牧場の業務関係資料19点。(2)は戦後、御料牧場の職員が農民として自立することを目指した帰農期成同盟の書類6点で、同盟の委員長を務めた芳住均氏が作成又は入手したものです。残りは刊行物で40点です。

それぞれの中から、何点か紹介しましょう。

まず(1)からは「木粉給与試験」(B89/19)です。

「現下ノ飼料難打開ノ一助トシテ(中略)木粉ヲ穀菽(引用者注一こくしゅく。穀類と豆類)濃厚飼料ノ代替飼料トシテ其利用価値ヲ検討」することを目的に、1945(昭和20)年2月下旬から60日間、桂・檜・蝦夷松・榎松の細粉を混入した飼料を馬に与え、体重や赤血球の増減等を調べたものです。試験結果についての学術的な論評はできませんが、試験馬にとっては災難だったに違いありません。なお、本資料には「芳住」の判が押されています。

(2)では新冠御料牧場帰農期成同盟委員長のノート2冊(B89/21、22)です。1冊目の冒頭に、帰農運動の原因と運動方針案が書かれています。原因として、「当御料地ノ如キ優良可耕地ヲ超食糧難ノ現下ニ於テ」「馬産其他ノ家畜飼養ニ供用」するのは「愚劣極マル国策」であること、宮内省が「永年使用セル従業員ノ移管後ノ生活ヲ保護スルコトナ」く「従業員ニ温情ヲ示サ」ないことを挙げています。運動方針案の後に、運動経過が2冊に渡って書かれています。同盟とその周辺の動きを細かく追うことができるでしょう。

刊行物では、『北方農業』です。同誌は農業技術の普及等を目的として北海道農業会が発行した刊行

物ですが、太平洋戦争末期の1945年には増産・供出を督励する記事が増え、戦意高揚をはかる見出しが付けられています。「前線の兵隊さんよ!!私たちは田畑に勝ちぬく」(5月20日号)、「作れ、作るのだ!!作れば必ず勝つ」(5月30日号)などです。

終戦後、しばらくは「農家は安心して増産に励め」(9月20日号)など命令口調が見られます。しかし徐々に農村の民主化を目指すべきだとする内容が増えていきます。1946年1月の号では「編集者の窓」欄で「一日も早くあの貴重な歴史をもつ“北方農業”の性格をとりもどしたい」として投稿欄「農民の声」を新設することを告知しました。そしてその欄に寄せられた「農業会は…やゝもすれば産組系統の理事者等が農会系統の指導部を以て単に…督励機関とみなす傾きは戦時中ならいざしらず、今や速やかに是正されなければならぬ」(4月10日号)という批判的な投稿を掲載しています。終戦間際の社会の雰囲気や、それが徐々に変化していく様子がうかがえます。

(主任文書専門員 山田 正)

## 参加記

### ▶第49回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 全国(東京)大会

本大会は、2023年11月30日(木)から12月1日(金)の2日間に渡り、「自治体アーカイブズの現在と未来」というテーマで駒澤大学・昭和女子大学との共催で開催されました。

第45回全国(長野県安曇野市)大会以来、4年ぶりのリアル開催(ハイブリッド)であり、当館からはオンライン参加となりました。

30日は、国と地方が役割を分担しトータルにアーカイブズを保存・保護・活用するイタリアの事例についての研修会と、昭和女子大学の学生が運営に携わるプロジェクトにおける被爆者運動史料の整理・保存・活用についての研修会、料紙研究から各時代の史料の特徴やその保存方法の問題点等に触れた特別講演会が行われました。

1日は、東京都公文書館ほかから、東京都の基礎自治体における文書管理に関する報告、尼崎市立歴史博物館地域歴史研究資料室“あまがさきアーカイブズ”及び鳥取県立公文書館から、実施している取組と活動成果、現状と今後の課題等についての報告がありました。

アーキビストや歴史資料の保存活用に携わる新たな担い手の育成に尽力する大学と共催して開催され

た本大会に参加したことは、北海道をはじめとした日本国内の地方自治体の視点だけではなく、全国的かつ多角的な視点から、今後のアーカイブズの在り方について考えることができた貴重な機会となりました。

(主事 佐藤 里帆)

### ▶国立公文書館令和5年度アーカイブズ研修II

標記研修会「電子公文書の管理・保存・利用」が2024年2月1日(木)～2日(金)の2日間にわたりオンライン形式で開催され、参加しました。

初日は、坂口貴弘氏「電子文書の管理・保存をめぐる基本的考え方」、新原俊樹氏「電子公文書に係る最新の動向」、国立公文書館による電子公文書に関するアンケートの結果報告。2日目は、鳥取県立公文書館と戸田市(埼玉県)の事例報告と質疑応答でした。

坂口氏の講義は、文書管理に関する国際的な動向として、国際標準化機構(ISO)やアメリカ連邦政府における電子文書管理での要求事項の紹介と解説でした。電子文書を扱うアーカイブズは「信頼できる第三者リポジトリ」(repository=蔵)である必要があり、そのためには安定性、専門性、中立性を有しなければならない(ISO 17068:2017)という部分が強く印象に残りました。

北海道の文書管理システムと文書館サブシステムは2020年2月に更新されたばかりです。しかし、電子公文書の保存と利用についてはまさにこれからの課題であることを再認識しました。

(主任文書専門員 山田 正)

## 令和5年度行事開催結果

### ▶企画展示

[道立図書館北方資料室・道立文書館連携展示『ゴールデンカムイ』を(もう一度)読む前に見る展示]

会期 2023年7月29日(土)～10月29日(日)

場所 図書館2階北方資料室展示コーナー、文書館展示コーナー

[パネル展～文書館の資料で観る北海道百景]

会期 2023年11月28日(火)・29日(水)

場所 道庁本庁舎1階 道政広報コーナー

[文書館所蔵資料展]

文書館資料にみる北海道の植物研究 江戸時代～大正

会期 2023年7月1日(土)～27日(木)

資料を見る～文書館の写真資料～

会期 2023年11月1日(水)～2024年3月29

日（金）

▶古文書解読講座

入門を5月21日（日）・6月25日（日）に、初級を6月18日（日）・7月30日（日）に、中級を2024年3月10日（日）に開催しました。

入門・初級は、コロナウィルスに係る行動制限の緩和を承け定員を増やしていましたが、定員を大幅に上回る申込みがあったため、急遽同じ内容で2回ずつ開催しました。参加者は延べ103名でした。

中級は、テキストを事前配布したため、音読に名乗りを上げたり、語句の意味を質問するなど、皆さん熱心でした。参加者は23名でした。

▶古文書教室

7月4日（火）に余市町で、11月18日（土）に北広島市で、2024年1月20日（土）に登別市で開催しました。参加者数は、それぞれ27名・13名・31名でした。

▶文書等保存利用研修会

「地域の歴史資料を保存・利用するために」をテーマとし、2024年2月14日（水）に開催しました。

まず当館の石川淳文書専門員より、道立文書館における私文書の調査・収集から整理・保存の方法について報告しました。

次に当別町教育委員会下村兼生氏より、同町が所蔵する吾妻家文書の保存・整理や一般公開に至る経過についてご講義いただきました。

主に市町村の図書館・博物館等に勤務する職員の方24名が参加し、報告の内容を掘り下げる質問をするなど、テーマへの関心の高さを窺わせました。

令和6年度の主な行事予定

▶古文書解読講座

江別市郷土資料館との共催により行う予定です。

◎入門 6月15日（土） 午後

◎初級 8月31日（土） 午後

◎中級 11月9日（土） 午後

◎会場 江別市野幌公民館

▶文書等保存利用研修会

◎日時 8月29日（木） 午後

◎会場 江別市大麻公民館

佛教大学歴史学部麓慎一先生による講演を予定しています。

▶施設見学会

◎10月31日（木） 午後

◎会場 文書館閲覧室・書庫

※施設見学は随時受け付けています。

▶古文書教室

伊達市（8月）と七飯町（10月）で開催予定です。

行事の詳細については、決定次第ホームページやSNS、ポスター掲示等によりご案内します。

【ご案内】

- ◎道立図書館は2024年5月14日（火）～11月30日（土）の間、工事のため一般の方の入館ができなくなります。
- ◎文書館は通常どおり開館しますが、図書館との連絡通路は使えませんので、入館・退館は文書館正面玄関からのみとなります。ご注意ください。
- ◎大麻駅や国道12号からの文書館への経路については、右の案内図をご参照ください。
- ◎来館に当たっては、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



北海道立文書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地1 電話 011-388-3001・3002 F A X 011-386-6787

■ Eメール somu.monjyo1@pref.hokkaido.lg.jp

■ U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/>

■ S N S ◎フェイスブック @archivesofhokkaido ◎X（旧ツイッター）@HKD\_Archives

■ 交 通 ◎ J R : 函館本線大麻駅南口から徒歩9分 ◎バス：大麻駅南口（J R北海道バス・夕鉄バス）から徒歩9分 教育研究所前（J R北海道バス）から徒歩1分  
◎駐車場：文書館前5台、図書館前35台（連絡通路あり）

■ 開館時間 9時から17時まで ※6～8月の毎週木・金曜日（月末休館日を除く。）は19時まで

■ 休 館 日 月曜日（月曜日が国民の祝日の場合、その直後の平日）、年末年始（12月29日～翌年1月3日）  
毎月末日（休日、月曜日、土曜日及び日曜日の場合は、その直前の平日。12月は28日）  
蔵書点検期間（年1回、10日間程度。期間についてはホームページ等でお知らせします。）